

電源の投入／遮断シーケンス

アプライアンス社
モータビジネスユニット

変更履歴

Revision	日付	変更内容
1	2007/6/20	初版
2	2012/2/8	表紙の社名を変更。 文言等を小変更。

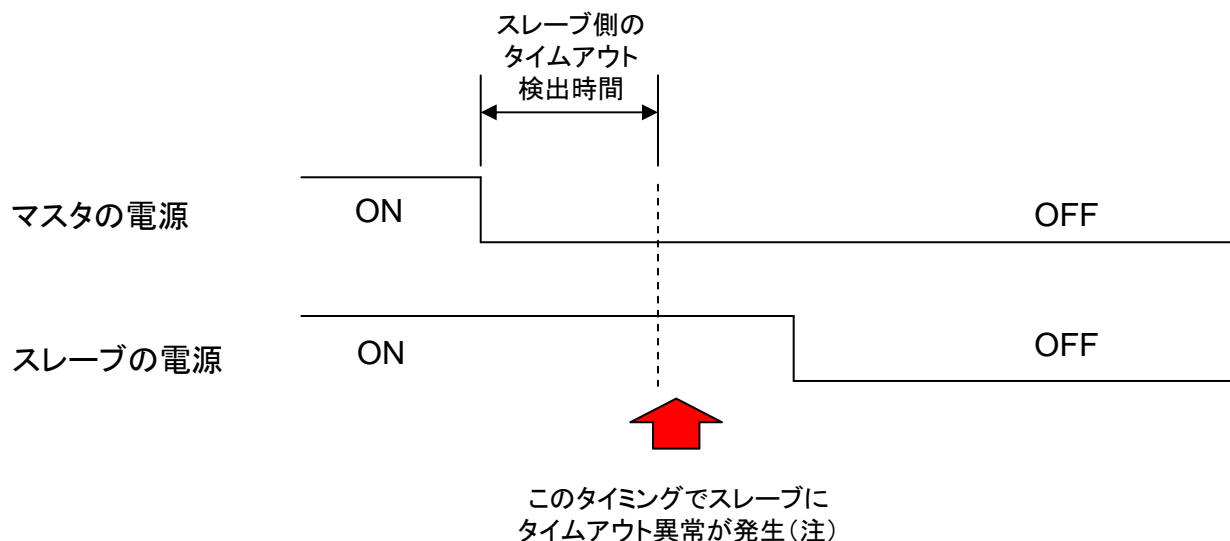
下表に示す待ち処理を行うことで、マスタとスレーブのどちらが先になっても正常に通信確立させることができます。

	マスタが先にON	スレーブが先にON
待つ側	マスタ	スレーブ
待ち処理	正常なレスポンスが返るまで Init-Aフレームを 連続的に送信(注)	Init-Aフレームを 受信するまで待つ
MNM1221の 状態	RING-CONFIG	CONFIG-A

注: サンプルコードではこのように構成しています。

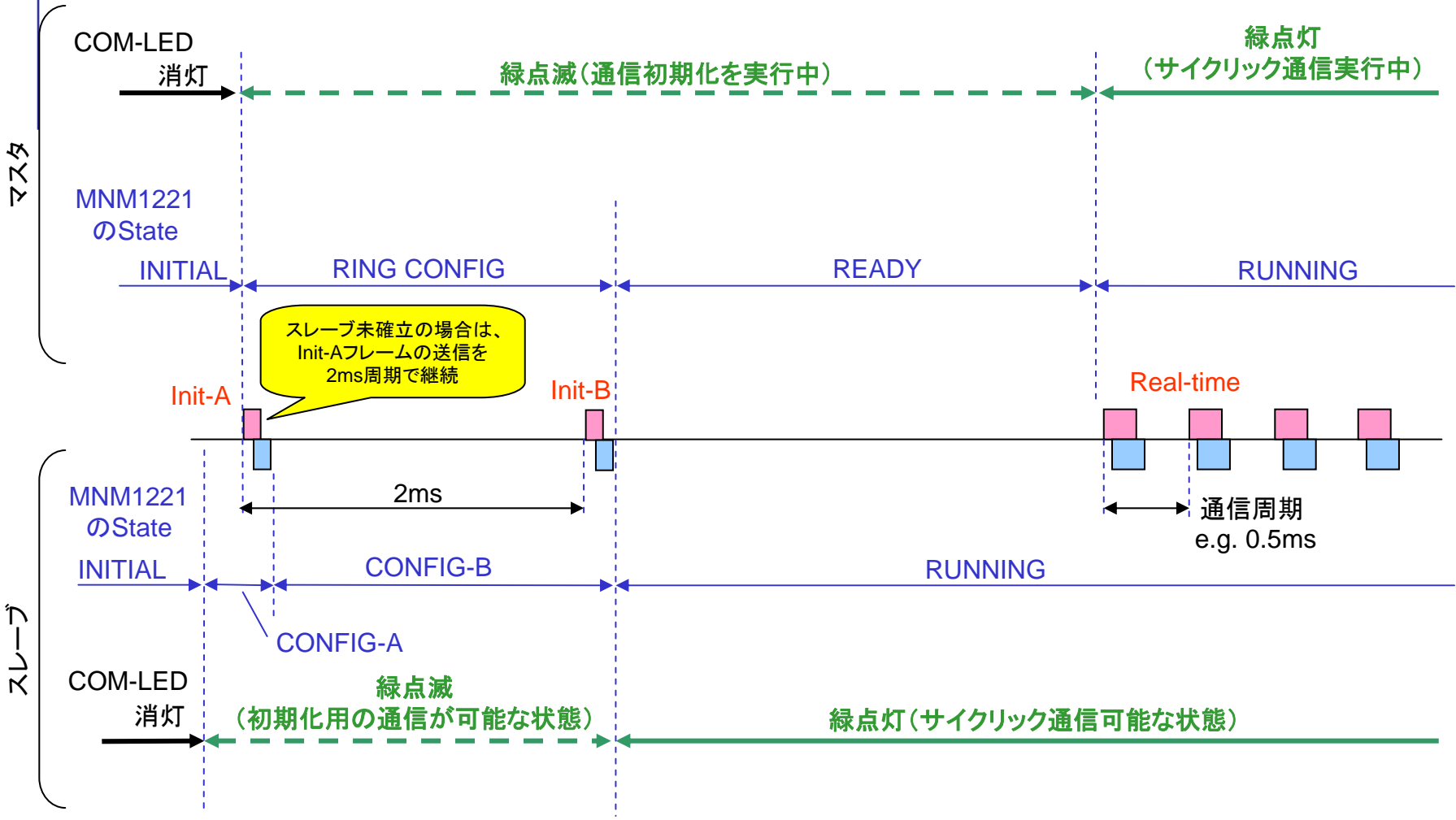
マスタとスレーブの遮断タイミングに、タイムアウト検出時間よりも大きな時間差がある場合には、後で遮断する側にタイムアウト異常が発生します。遮断前の一瞬に生じる異常なので通常は問題になりませんが、この異常を回避する必要がある場合には、遮断前にリセットコマンド(x1h)を実行してマスタとスレーブの両方を初期化し、通信が確立する前の状態で遮断する構成にしてください。

先にマスタが電源遮断された場合の例



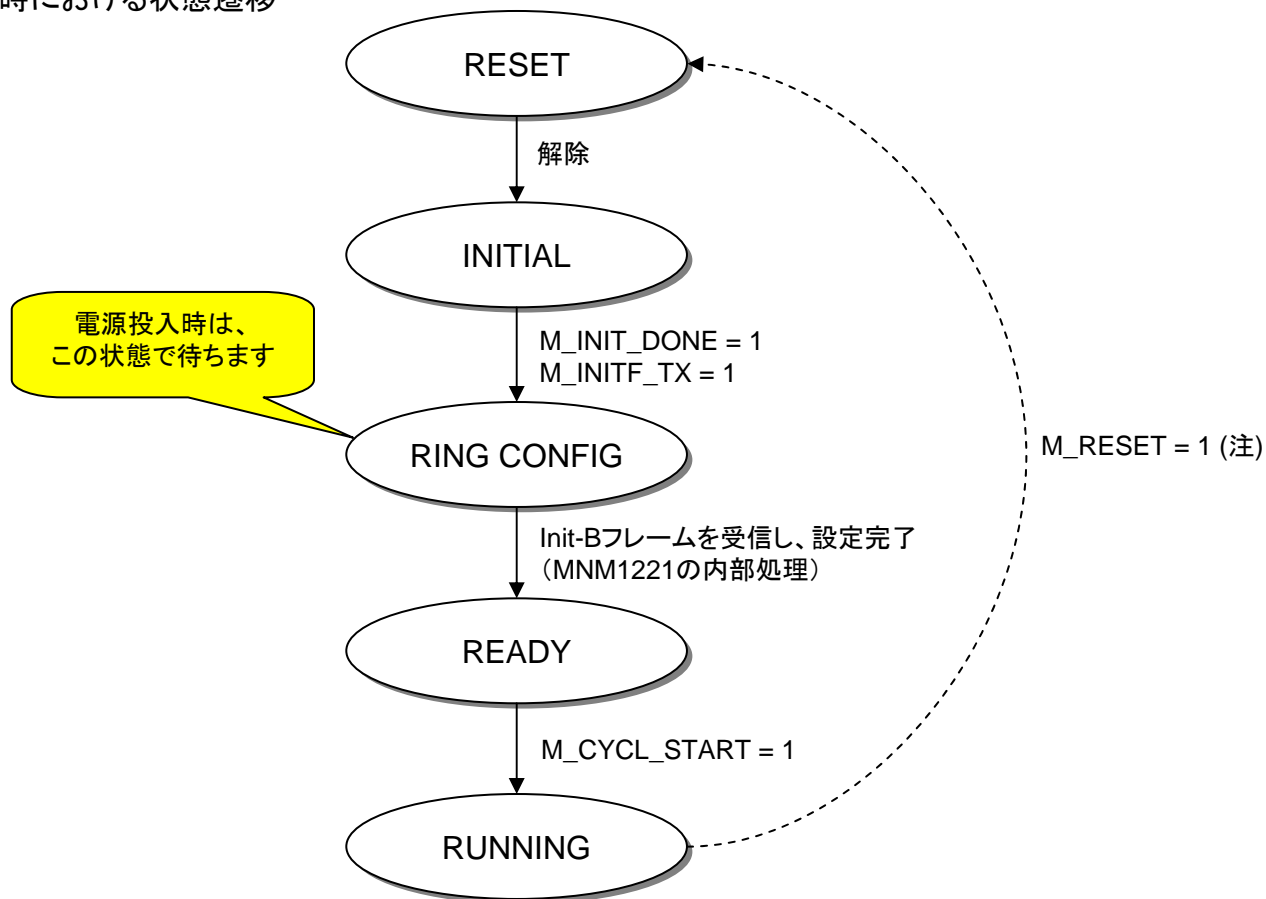
注: サーボではタイムアウト異常をエラー履歴に記録しません(EEPROMに記憶しません)。

起動時の状態遷移



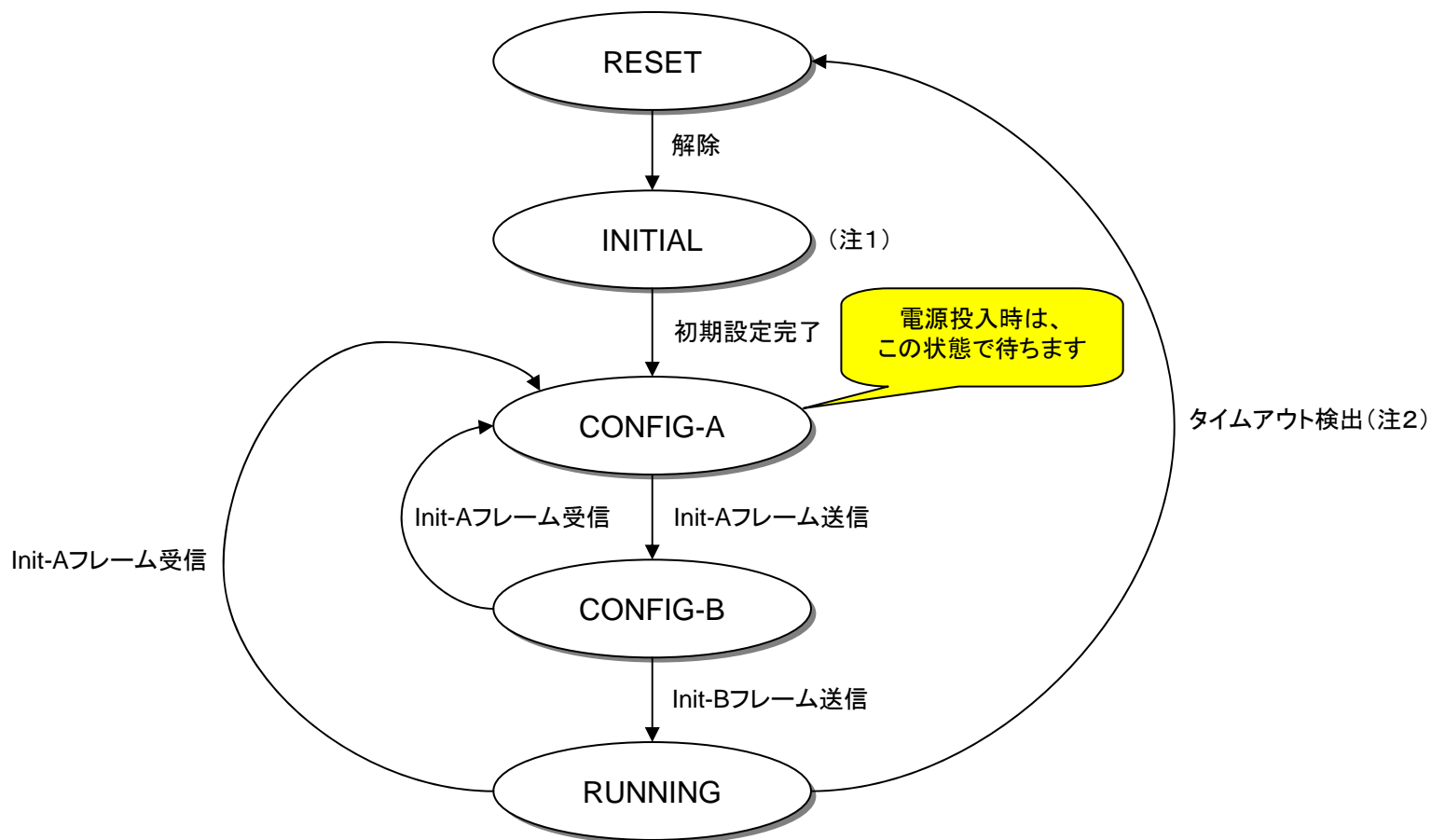
マスタでのMNM1221状態遷移

サンプルコード使用時における状態遷移



注: M_RESETレジスタを1にすれば、RUNNINGに限らずどの状態からでもRESETになります。
異常発生時の復帰手段として使用してください。

スレーブでのMNM1221状態遷移



注1: INITIAL状態で受信したフレームは破棄されます。

注2: タイムアウト発生後にはケーブルの接続順序が変更される可能性があるため、リセットします(ファームウェアによる処理)。